

令和7年度 全国学力学習状況調査からわかる

本校の傾向と課題について

羽曳野市立 恵我之荘小学校

【調査の目的】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらにそのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

※今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

【国語】

- ・「書くこと」の領域では、例年以上に正答率が高くなった。これは、授業の中で、自分の考えをわかりやすく表現する機会を増やしたり、学年に応じて、自分の体験や思いを日記に表現したりしていることが関係していると考えられる。
- ・思考・表現・判断の「C読むこと」に課題が見られた。低学年から長い文章を読むことに抵抗がなくなるように、読書活動や新聞を読む経験を増やし、文章の中から必要な情報を見つける力を高めるような指導をしていく。
- ・記述式の問題の正答率が低く、無解答率が高い問題もあったので、時間配分に注意しながらテストに取り組むことや、すぐにあきらめるのではなく、最後まで取り組むことを指導していく。

【算数】

- ・ $1/2 + 1/3$ を求める計算の正答率が全国平均を上回った。毎朝、四則計算の計算力の向上を目的とした全学年朝マス計算に取り組んだり、学期1回の計算テストや3年生以上はCBT【Computer Based Testing】の実施をしたりするなど、計算の基礎

基本の定着をめざしているからだと考える。

- ・思考・判断・表現を問われるもので、記述式の問題に課題が見られた。また、数と計算領域でも、基本的な計算はできているが、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉で説明することに課題が見られた。
- ・日々の授業で、計算の答えだけでなく、どうしてそうなるのか理由を書いたり、自分の考えをノートに書く時間を増やしていく。ICTを活用し、考えの交流を充実させることも大切にしていく。

【児童質問紙と各教科から】

- ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」という項目のあてはまると答えた割合は、全国平均に対し、10ポイント以上高かった。「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という項目でも、全国平均に対して大幅に高い。職員全体で、児童一人ひとりの変化を見落とすことなく、自己肯定感を高める声かけを授業や生活、いろいろな場面で積極的にしていこうと取り組んでいる結果だと言える。
- ・「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。」という項目では、あてはまると答えた割合は、全国平均に対して、10ポイント以上高かった。校内の授業研究で、「自分の考えを表現し、わかりやすく伝えよう」と日々の授業改善に取り組んできた結果だと言える。
- ・「読書は好きですか」という項目であてはまると答えた児童が全国平均より上回り、高かった。本校では図書館司書がおり、朝の読書タイム、リレー家読、読書ノート、辞書引き大会など、多くの読書を推奨する取組みを行っている成果である。今後も、図書担当教員や図書館司書を中心に、児童が読書を好きになるような取組みを続けていく。
- ・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか。(塾、家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。)」という項目で、30分未満の割合が、全国と比べると高かった。児童が家庭学習に進んで取り組めるよう、わかる授業に取り組む学習意欲を高めることと、家庭への啓発(自主学習の手引き)を継続していく。

【クロス集計分析より】

クロス集計とは、教科の調査問題結果と生徒質問紙・学校質問紙の調査結果の相関関係を見た集計のことです。「児童の生活などに〇〇のような傾向があれば、平均正答率が高い傾向がある」「学校が〇〇という取組みを行ってれば、平均正答率が高い傾向がある」といった相関関係を調べたものです。

学校における指導や児童の意識と学力との関係

次の指導を行った、もしくは児童が次のような意識をもっている場合、教科の平均正答率が高い傾向がありました。

- ・将来の夢や目標を持っていますか
- ・学校に行くのは楽しいと思えますか
- ・先生はあなたのよいところを認めてくれていると思えますか
- ・自分には、よいところがあると思えますか
- ・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか
- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
- ・各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか
- ・目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか

本校では、違いを認め合い、高め合うことができるように、日々教職員がチームとなって児童の指導・支援をしています。「学校に行くことが楽しい」と思えることを一番に、児童一人ひとりの良さを認めることを大切にしています。結果、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思えますか」の項目では、全国平均より大幅に高い結果となっています。引き続き、児童の自尊心を高め、人権を尊重した教育を続けてまいります。

また、以前より授業改善に取り組んでいますが、他の意見や考えのよさに気づき、個々の輝く集団づくりをしていくことや、児童の達成感や成就感を高められるように、今後も授業研究を続けてまいります。

【児童の主体的な学びを推進するために】

個が生きる学び ～数学的な表現力を高めるために～ を研究テーマに設定し、職員全体で授業改善、授業研究に取り組む。

- ・ 児童が主体的になる教材研究や発問などの指導技術を高める。
- ・ 対話的に学ぶ話し合い活動や、自分の言葉で説明できる活動を取り入れる。
- ・ 対話的で、児童の意見が主体的に、つながり、より高め合える、深い学びを創造していく。
- ・ 書く場面を増やし、授業や日々のふりかえりを書く。
- ・ 自分の考えを整理できるノート指導や授業の流れがわかる板書を研究し、筋道立てて書けるようにする。

具体的な取り組み

- ① 話す、聞くあいうえお、授業の流れの掲示（環境整備）
- ② 朝読 ⇒ 朝マス（5分）学年に応じたマス計算のプリントに取り組む
- ③ 日記（1日の生活のふり返し）
- ④ スピーチ（朝の時間、帰りの時間など）
- ⑤ 群読や音読
- ⑥ ドリルパークでの復習や予習（家庭学習や空いた時間に）
- ⑦ 学期に一回の計算テストやCBT【Computer Based Testing】
- ⑧ 3年生から算数での少人数指導
- ⑨ 全学年、国語・算数での学力調査型テスト(3月)
- ⑩ 授業アンケート（児童、教職員）